

那覇西ロータリークラブ

国際ローター 2580 地区 創立 1962 年 6 月 4 日

2019年11月27日

週報 第2586号

プログラム案内



本日のプログラム
11月27日 (水)

- ・点鐘
- ・ロータリーソング
- 日も風も星も
- ・会長報告
- ・幹事報告
- ・立食

四つのテスト

- 1、真実かどうか
- 2、みんなに公平か
- 3、好意と友情を
深めるか
- 4、みんなの為に
なるかどうか

次回予定

- 12月4日 年次総会
- 12月11日 忘年会

例会報告

第2703回 (2019年11月20日)

出席報告

会員数	出席数	欠席数	出席率	前々回 訂正出席率
61名	38名	20名	66%	68%

崎原、石川、安里 (清)、宮里、上原、福重、比嘉 (広)
久保、渡慶次、立津、照屋 (紀)、平尾、宮城、城間 (一)
大田、白井、古荘、石垣、井口、堀井会員
メークアップ会員

名幸俊海 (11/12 那覇) 大原 博 (11/13 宜野湾)

具志堅一真 (") 伊野波盛求 (")

ビジター

名嘉義明 (那覇)

ゲスト

仲本 守 (ゲストスピーカー)

ニコニコBOX

合計 ¥1,000 累計 ¥153,000

松島寛行 先日、人見さんのはからいでSMBC
日興証券の番組OTV「ウチナーの鼓動」
に出させてもらいました。

会長 比嘉広明 副会長：大城純市 新里順一

幹事：大庭 憲

例会日 毎週水曜日 12時30分

例会場 沖縄ハーバービューホテル

事務局 那覇市松山 1-1-14 那覇共同ビル 6階

TEL：861-7824 FAX：861-7825



11月度誕生祝い

白井淳司 (11月4日) 名城政次郎 (11月16日)

照屋義実 (11月15日) 福重 勉 (11月18日)

会長報告



今日は比嘉会長がお休みで私にまわってきたので、会長から特に引き継ぎ事項はございませんので、今日は「沖縄の古武道の歴史と今」ということで仲本守さんに卓話をさせて頂くことになっています。とても楽しみにしております。私も古武道をやってみたいなと思っていて、いろいろ聞くと定期的に練習しないといけないということで、なかなか時間がとれないですけど、いずれ是非やってみたいなと思って、今日は刺激になればいいかなと期待しております。

それから次年度の執行部の準備をいたしておりますけど、来週水曜日に指名委員会がございまして、次年度7月以降の新執行部の人事も検討中でございます。皆さんにもいろいろお願いをしておりますけど、是非皆さまよろしくご協力をお願いしたいと思います。

次年度何をするかとか、そういう次年度の執行部の目標なりキャッチコピーをいろいろ検討中でございます。皆さんのご意見を集約する形で次年度も那覇西ロータリーのロータリーガストが活性化するように頑張っていきたいと思っております。

幹事報告

例会変更・休会のお知らせ

那覇南ロータリークラブ

(例会休会)

2019年12月2日 (月) 定款第8条1節C項適用

2019年12月30日(月)年末休会

(例会変更)

日時:2019年12月23日(月)18:30点鐘

場所:寿司割烹「元」(徳元 豊会員)

那覇市若狭3-3-1 TEL868-5162

ビジター費:5,000円

※夜間例会&忘年会へ変更致します。

卓話 「沖縄古武道の歴史と今」

沖縄伝統古武道保存会・文武館館長 仲本 守 様



今回、「古武道の歴史と今」ということなんですけど、空手はだいぶ世界に広まって県内でも道場は多いんですけど、古武道がまだまだです。これは昔からそういうのがずっと続いている状態です。空手は本土に富名腰義珍先生がもって行って100年ぐらいますけど、その時に古武道というのがまだ体系化されていないような状態、それぞれの各地あるいは1人の先生が一つの型をもっているとか、そういった形が転々としてあるわけです。それを富名腰先生のお弟子さんでありました、平信賢先生が、これじゃあ無くなるということで沖縄中の先生方を訪ね歩いて、この先生からはこの棒術、この先生からはこのサイ術、こういった形で集めてきて、それを総合的に古武道としてまとめていったわけです。本来はもちろん長い歴史があるんですけど、古武道として体型づけられたのはつい最近ということになります。

資料に球陽というのがございますね。そこには1600年代の記事になりますけど、槍とか棒を修練していたというそういった記録も残ってます。

空手もそうですけど、型にはそれぞれ名前があります。サンチンとかナイファンチ、クーサンクーとか、全てではないんですが、その殆どが中国語読みなんです。古武道の場合武器があります。これは釵(サイ)、トンファ、クイファ、トンクワとかいいますが、これも中国語読みになります。ヌンチャクこれも中国語読みです。

(実際の武器を見せながらの説明があり、また武器は殆どが中国から入ってきた大体9種類ぐらい、しかし型は沖縄で大分研究されて人の名前がついたり、或いは地域の名前が付けられた。)

空手は競技化されて長いのですが、古武道は1995年にプレ大会で沖縄県で初めて競技化されました。それまで各地の演舞会でまったく違う流派の演舞をみるぐらいのものだったんですけど、その時初めて沖縄中からこれにエントリーする方々が出てそれから今まで続いているわけなんですけど、競技化されて20年ぐらい経ってますが、空手ほど基準がはっきりしないところが沢山あって、なかなか難しいところがありますけど、2004年に各流派古武道の専門的な団体をひとつにまとめて沖縄県古武道連盟を発足されました。古武道連盟は沖縄の有名な道場が参加して出来てますので、まだまだ古武道の

発展はこれからかなと思います。ただ小さい組織ながら過去に2回独自で世界大会を開いています。

古武道は棒と、サイが基本になります。棒の場合は沖縄、離島中に広まって、今では村棒と言いますが、村の棒術がたくさんあります。私は首里手と言って首里に伝わる棒です。

世界中から古武道を習いに毎年、初めての方から継続して来る方もいらっしゃいます。最近で言えばベトナム、ベルギー、フィリピンとか。どちらかと言えば古武道は、海外では人気、沖縄ではそうでも無いと言う事で、私の父は空手も古武道も先生ですので、特に父は古武道を無くしてはいけないと言うことで、空手はほっておいても勝手に広がると、古武道は本当にやらないと無くなるという事で、私の父、先生でもありますけど、その父が20代の頃の出会いを少しお話します。

父は知花朝信先生から空手を習って、当時民政府に勤めていて、その上司が当時の琉球政府のトップでシャノマキーンというユネスコの局長？をされた方で教育学者です。そのシャノマキーンさんが各地の村の行事に招待されていくわけです、その時に青年達は空手を一生懸命やってる、しかし武器を使う物はどうしてか、おじさんしかやってないと、ある時に私の父に空手は若い人たちがやってるから問題ない、しかし古武道は明らかに無くなるよと、もう年配の方しかやってないのだから、君は空手だけじゃなくて、これもやりなさい。とそれから父は古武道を取り組むことになったんですね。それでいろんな先生方を訪ね歩いて平信賢先生という方に会って、その先生も古武道が無くなるよ、無くしちゃいけないということで、各先生方を回って集めてきた。私は父からずっと学んでいるわけですが、いろんな世界大会とか、県の大会とかいろいろ出させて頂いてますけど、これが私のメインではなくて、私は父のDNAというか考えが入っているのか知れないですけど、気付くと私も父と同じような形になっていると思うわけです。私の30代までは特に競技に力をいれて、若い時は勝ちたいというのがありますから、それに集中してやりましたが、30代前半ごろ空手でやっていこうか、やめようかという状態が一時期あったんですね。その時非常に苦しい時期がありましたけど、やるだけやって自分が納得したら辞めてもいいんじゃないかと思って、やるだけやってみようと思って、それから急激に古武道の歴史とか、実際の場合どうなんだろうとか、他の先生達はどうかやっているんだろうとか、そういったふうにいる調査、研究していく中で、いろんな先生方にお会いして、教えてもらったりとか、保存するそういった形をいまでも続けているんですが、周りの人たちは競技、競技でいくものですから、勝ちたい、勝ちたい、それだけだと無くなりつつあるのが沢山あるので、少しでもそれを防ぎたいということで、個人で出来る範囲で、自分が継承していつているわけです。

平信賢先生がやってきたこと、父がやってきたことをまったく私は同じ事をしているわけです。ですから、なかなかパツとしないような。空手界だとまだまだ小さい状況ですけど、そういった形で一生懸命頑張っている状態でございます。

最後に説明しながら演舞をして終了しました。



実際の武器を持つての説明

最後に演舞を披露し終了